

そのICT活用、授業を豊かにしていますか？

～「わかったつもり」を防ぎ、深い学びへ～



ICTは、子どもたち一人ひとりの学びを支え、授業を豊かにするための強力なツールです。

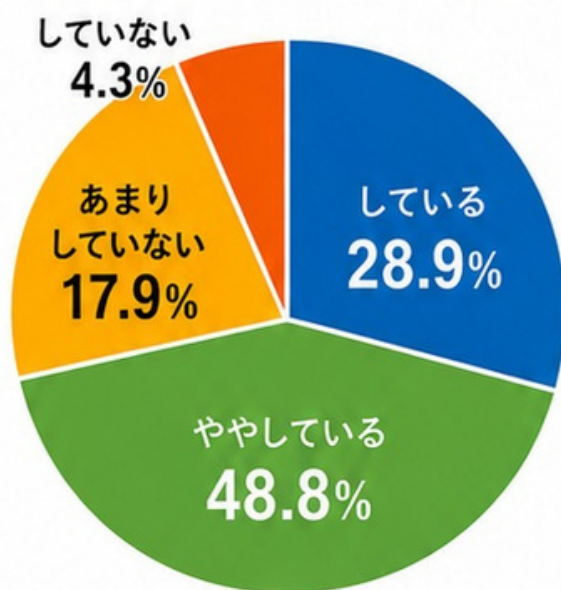
しかし、「使っている＝効果的」とは限りません。

今一度、ICT活用の目的や効果を見つめ直し、子どもたちの「深い学び」につなげていきましょう。



① 教職員アンケート

(ICTとアナログの良さを踏まえ、端末を効果的に活用しているか)



現状の活用を、単なる「使用」から「質の高い活用」へとステップアップさせるきっかけにしましょう。

② よくある落とし穴



スライド提示が多すぎる

情報の切り替えが速く、
子どもの思考時間が不足しがち。



「見るだけ」で終わってしまう

視聴だけで満足し、
自ら考える活動が弱くなる。



操作が目的化している

アプリを使うことがゴールになり、
ねらいが二の次になる。



情報の「速さ」に流される

デジタルの速さに、
子どもの小さな「問い」を見逃す。

③ ICT活用の3つのポイント



1 「わかったつもり」に注意！

提示だけで終わらず、
「なぜ？」を引き出す発問を工夫しましょう。



2 「速い展開、消える情報」を意識する

思考の「間」を確保。
板書と効果的に連携させましょう。



3 単なる「入力作業」で終わらせない

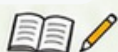
共有や対話を大切にし、
学びが次につながる問いかけを。



ICTは、目的ではなく「学びを深める手段」です。
子どもたち一人ひとりの「深い学び」の実現に向けて、
これからも、創意工夫ある活用を重ねていきましょう。



ICTとアナログの良さを生かして
子どもたちの「わかった！」できた！を
もっと増やしていきましょう。



ICT活用のキーワード



目的意識



子ども主体



協働と対話

令和8年6月
摂津市教育委員会

デジタルとアナログの強みを生かして、学びをもっと豊かに！

デジタルの良さが発揮できる場面(例)

- 1 動画やシミュレーションを活用して、実際には見られない現象を可視化する場合

- 2 一人ひとりの理解度に応じて、個別最適な学習を進める場合

- 3 多様な資料や情報を短時間で収集・比較する場合

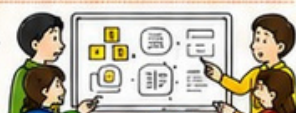
- 4 考えを共有し、全員の意見を一覧化する場合

- 5 遠隔地や専門家とのつながり、学びを広げる場合


アナログの良さが発揮できる場面(例)

- 1 じっくり考えながら手で書き、思考を整理する場合

- 2 友達と顔を合わせて対話し、表情や空気感を感じながら議論する場合

- 3 大きな紙やホワイトボードを囲んで、協働的に考える場合

- 4 実物に触れたり観察、ものづくりや実験を行う場合

- 5 読書や文章の精読など、集中して深く考える場合


※ここで示したものは一例です。子どもの実態や学習内容によって、デジタル・アナログそれぞれの良さが発揮される場面は他にもたくさんあります。「何を学ばせたいのか」を起点に、最適な方法を考えてみましょう。

結論

デジタルかアナログかの二者択一ではなく、それぞれの強みを生かして最適に組み合わせることが重要である。

デジタルの強み



組み合わせることで
学びの可能性が
広がる！



アナログの強み



場面や目的に応じて柔軟に使い分け、子どもたちの学びをより豊かにしていきましょう！

情報を受け取る私たち自身も「見極める力」を持とう

教職員自身がインターネットを介して様々な情報を受け取り、それをもとに授業で子どもたちに発信することが多くあります。しかし、受け取った情報をそのまま「当たり前」や「正しいこと」として伝えてしまうのは危険です。

エコチェンバーやフィルターバブルのリスク

エコチェンバー

同じ意見が繰り返され、視野が狭くなる



フィルターバブル

自分に合う情報だけが届き、他の視点に触れにくくなる



これらの影響で、特定の情報が「世間の当たり前」や「正しい姿」として誤認してしまうリスクがあります。

ファクトチェックを習慣に！

情報を見極め、子どもたちに正確に伝えるために、次のステップを意識しましょう。

- 1 情報の出どころを確認する
誰が、どこで、いつ発信した情報がチェック。
- 2 複数の情報源を比較する
異なる立場や種類の情報を照らし合わせる。
- 3 根拠(データや事実)があるか確認する
感情や印象ではなく、事実やデータに基づいている。
- 4 最新の情報が確認する
情報は時間とともに変わる。日付や更新状況を確認。
- 5 自分のバイアスに気づく
「自分はこういたい」という気持ちが判断に影響していないか振り返る。

正しい情報を見極めることが、子どもたちの「深い学び」と未来をつくる力につながります。



情報を「受け取る側」から「見極め、活用する側」へ。
教職員自身の情報リテラシーを高めることが、よりよい授業づくりの第一歩です。

